

身体ひとつで表現は始まる

豊橋アーティスト・イン・レジデンス 2019

ダンス・レジデンス

Dance Residence

振子ぴじん
康本雅子
白神ももこ
スペースノットブランク
カンパニーデラシネラ



白神ももこと西井夕紀子が表浜海岸にて
身体の動きを探る様子

穂の国とよはし芸術劇場PLAT / 豊橋市

アートの種は、根を張り、芽を吹いた

「豊橋アーティスト・イン・レジデンス」は国内外で活躍するアーティストを穂の国とよはし芸術劇場に迎え、創作や稽古の場、滞在施設を提供する事業です。2017年度に開始以来〈ダンス・レジデンス〉と題し、舞踊や身体表現に重点を置くアーティストを対象としてきたこの事業も3年目を修了。最初にまいたアートの種は、確実に根を張り、芽吹いてきました。そこで今回は過去2年も振り返りながら、事業の成長ぶりを報告いたします。

ダンス・レジデンスは、決してアーティストのためだけの事業ではありません。彼らは滞在制作の期間中、ワークショップや稽古場公開なども精力的に行い、自らの考えや感性、方法論などを市民とシェアします。それは両者に有意義な体験となってきたのでしょう。少しずつネットワークが広がり、アーティストの応募状況にも市民の参加状況にも嬉しい変化をもたらしてきました。

ダンスは手の届かないような難しいアートではなく、身体ひとつで誰もが親しめる可能性をたくさん秘めています。そして、これからの豊橋に新しい文化の花を咲かせるには、アーティストと市民の相互作用が不可欠なのです。

アーティストにイイこと

創作だけに集中できる時間

アーティストが自身の居住地で創作を行う場合、日常生活に戻るたび意識が途切れてしまうことは多いはず。しかし滞在制作では思う存分、活動に集中できます。

異なる環境から受ける刺激

未知の風土や歴史、文化のある街で暮らすことは、アーティストにとって大きな刺激。それが反映されて作品になることだってあるのです。

市民のストレートな反応
ワークショップや成果発表会に集まる市民は、ダンスやアートに詳しい人ばかりではありません。そこで得た率直な感想や意見はアーティストにとって貴重です。

ダンス・レジデンス

アーティストを至近距離で!

ダンス・レジデンスでは、公演鑑賞とは違った距離感でアーティストと接することが可能。一挙手一投足を間近で見られるのは、またとないアート体験です。

多様な人たちと出会える場

子どもや高齢者、外国人や障がいを持つ人など多様な人たちがアートを通じて出会い、体験を共有できる場としてもダンス・レジデンスは意義を発揮します。

豊橋の街を発見&発信
アーティストの新たな視点は街の再発見にもつながります。また、彼らはダンス・レジデンスによる支援を様々な形で明記。豊橋の名前が広く発信されるのです。

「とよはし」にイイこと

Dance Residence

白神ももこと西井夕紀子が表浜海岸にて身体の動きを探る様子

Digest

ダンス・レジデンス 2017 ダイジェスト

初年度は公募で採択された5組を含め、7団体が滞在制作を行いました。踊りを主軸とするアーティストたちにまじって、演劇を主軸とする「チェルフィッチュ」も参加。独自の身体感覚と言語感覚を結びつけた創作からは、身体表現の尽きない可能性を感じられました。

【参加アーティスト】
鈴木ユキオ／YUKIO SUZUKI projects
岡田利規／チェルフィッチュ
浅井信好／月灯りの移動劇場★
相模友士郎★
中村蓉★
平井優子★
Rie Tashiro／AYATORI★
(計7団体)

★印のアーティストは公募参加

DATA

2017	4/19	→	12/28
アーティスト滞在日数	69日		
イベント開催日数	20日		
レジデントアーティストおよび滞在メンバー人数	29名		
ワークショップの参加者数	142名		
成果発表会の参加者数	130名		
稽古場公開の参加者数	34名		
参加者合計	306人		



中村蓉 動画制作「きょうのとよはし」



相模友士郎『ナビゲーションズ』のアフタートークの様子

豊橋を再発見 踊って語って

アーティストは時に劇場から街に飛び出し、その場その場に刺激を受けながら創作へとつなげることがあります。コンテンポラリーダンサーの中村蓉は、豊橋市公会堂や三の丸会館のような公立施設、あるいは遊技場や喫茶店といった民間の憩いの場で踊って、それぞれを約15秒の動画作品にしました。また演出家の相模友士郎は長く取り組み続ける『ナビゲーションズ』の自主公演会場として、駅前大通沿いの開発ビルを利用。終演後にはアフタートークも行いました。両人の企画は、昔からある建物、市民の誰もが知っている場所を新たな視点で見直し、既存の価値観やイメージとはまた違った魅力を引き出すことになりました。同時に市民とのコミュニケーションも図り、ダンスが街や人と関わることの可能性を語り合っています。

舞踏から出発した鈴木ユキオは、ダンス未体験者大歓迎のワークショップを実施。「小学生以上」という条件だけだったので、児童から上は60代まで幅広い世代が一堂に会することとなりました。普段はなかなか接点のない世代と世代が、ダンスを通じて言葉を交わし、意見を交換する風景は貴重。特にシニア世代はアートや舞台芸術と疎遠になりがちですが、鈴木舞踊哲学に感化される参加者続出で、稽古場公開も大いに盛り上がりました。一方で鈴木自身も手応え十分。自然と笑顔があふれています。ダンスは身体を使うという共通点のもと、年齢や性別、知識にかかわらず向き合うことが可能です。うまく動けなくても構いません。それが身体の個性であり、自身にしかできない表現になるからです。子どもからお年寄りまで異なる世代が自然と交流できたのは、ダンスの本質と無関係ではないのです。

年
齢
な
ん
て
関
係
な
い
！



岡田利規／チェルフィッチュ
『三月の5日間』リクリエーションの様子



中村蓉と酒井直之が、豊橋市立下地小学校で行ったワークショップの様子

国際的カンパニーの傑作をサポート

劇作家・演出家の岡田利規は、自身のカンパニー「チェルフィッチュ」を率いて滞在制作。彼が2004年に発表した『三月の5日間』をリクリエーション(再創作)しました。この作品は演劇界の芥川賞とうたわれる岸田國士戯曲賞に輝き、以降の演劇シーンに多大な影響を与えた傑作です。岡田の戯曲は世界各地で翻訳・上演されることも多く、彼自身、国際プロジェクトやジャンル横断的な作品に関わった経験が豊富で、小説家としても大江健三郎賞を受賞。現代日本を代表する表現者のひとり間違いありません。そんな才人が歴史的な作品『三月の5日間』の稽古場を一般に公開するのは非常にスペシャルな出来事。ダンス・レジデンスだから実現したと言っても過言ではありません。



浅井信好と杉山絵理が、豊橋市立羽根井小学校で行ったワークショップの様子

お待たせしました、 “出前”です！

アーティストは滞在中、市内各所に出向いてワークショップなどを行うことがあります。一般に「アウトリーチ」事業と呼ばれるそれらの活動は、いわばアートを“出前する”と言ってもいいでしょう。2017年度は「芸術文化体験普及事業」をダンス・レジデンスと連携させ、小中学校でダンスの出前授業を開講。中村蓉のチームが下地小学校と高師小学校、鈴木ユキオのチームが五並中学校、浅井信好のチームが下条小学校と羽根井小学校と、豊橋市立の学校を訪れました。ダンスは学校教育に取り入れられ、個人の習い事になっている子どもも増えましたが、いろいろな作風の専門家に出会う機会は少ない現状です。学校へのアウトリーチによって子どもたちは「身体ってそうか」「こんな踊りもあるんだ」という新鮮な驚きを得たはず。なお、名古屋に拠点を置く浅井は愛知ダンスシーンの牽引役として活躍。様々な形で育成事業にも取り組んでいます。



鈴木ユキオ 稽古場公開の様子

Digest

ダンス・レジデンス 2018 ダイジェスト

2018年度は4組のアーティストを迎える中、滞在メンバーの一部には海外勢も。一方、奥三河の「花祭」を題材にしたCo.山田うんの創作には、偶然訪れた外国人見学者が心を奪われていて印象的。在留外国人の多い豊橋だけに、さらに国際色豊かな展開も期待されます。

[参加アーティスト]

木村玲奈 / 「どこかで生まれて、どこかで暮らす。」プロジェクト★

工藤聡★
Co.山田うん
富士山アネット
(計4団体)

★印のアーティストは公募参加

DATA

2018 9/6 → 2019 2/1

アーティスト滞在日数
43日

イベント開催日数
14日

レジデントアーティストおよび
滞在メンバー人数
33名

ワークショップの参加者数
106名

成果発表会の参加者数
47名

稽古場公開の参加者数
184名

参加者合計
337人



Co.山田うん「いきのね」リクリエーション成果発表会より

「花祭」が 三河エリアに 帰還

山田うん率いるダンスカンパニーは、あいちトリエンナーレ2016で発表した『いきのね』をリクリエーション(再創作)するために豊橋へとやってきました。これは奥三河に700年以上も伝わる民俗芸能「花祭」からインスパイアされた作品なので、誕生の地・三河エリアに帰ってきたとも言えます。ワークショップでは、偶然に情報を知った豊橋在住の外国人が参加し、成果発表会にも見学に訪れました。彼は、伝統的な要素と現代的な要素のどちらも見られるダンスに心を揺さぶられたそうで、あらためて地元の文化に誇りを感じたことはもちろん、ダンスが言葉や文化の壁を越えるアートであることを実感させられました。このエピソードは、様々な外国人が暮らす現在の豊橋でダンスやアートが共生の懸け橋となりうることも示唆しているのではないのでしょうか。



撮影：羽鳥直志

海外勢の貴重な現場を目撃



工藤聡「Necessitude」成果発表会より
左からClaire Camous(クレア・カムース)、工藤聡

名古屋市出身でスウェーデン在住のダンサー、工藤聡はダンス・レジデンス初の多国籍チームで滞在制作を行いました。ダンサーでは工藤を含む日本勢3人とフランスから1人が参加。さらにスウェーデンの作曲家が来日し、日本在住のスペイン人が振付アシスタントに就きました。ダンスが一種の共通言語とはなるものの、舞台芸術の現場における取り組み方は国によって微妙に違います。作業手順から芸術文化の背景まで、様々なことをすり合わせながら作品として仕上げていくプロセスには興味深いものがありました。なお、スウェーデンの作曲家は母国から助成を受けており、工藤たちが豊橋で稽古した作品は同じ愛知県内の長久手市文化の家の事業として公演されています。複数の公的機関が連携してサポートするという点でも新しい試みとなりました。



富士山アネット「霧の國」成果発表会より

体感型極まる 最新鋭 パフォー マンス

長谷川寧が代表の富士山アネットは、イマドキかつ実験的な作品づくりで見学者を驚かせました。彼らは「イマーシブ・シアター(没入型劇場)」という新しい上演形態を試行錯誤。昨今ちまたで見られる体感型ゲームや参加型イベントも踏まえ、観客が作品に取り込まれていくようなパフォーマンスを追求しました。成果発表会では作品タイトル『霧の國』さながらに大量のスモークで視界を遮

られる一種異様な世界が出現。それが先行きの見えない日本社会のイメージと重なって、客席から観るだけとは違うリアルな未来への恐怖を想像させました。劇場でしかできない大がかりな実験だったので、本番に先駆けて技術的なテストができたことはアーティストにとって大きな収穫。見学者からは忌憚のない感想や意見が飛び交い、公演の無事成功を後押しすることになりました。



木村玲奈 / 「どこかで生まれて、どこかで暮らす。」プロジェクト成果発表会より「喫茶水鳥」、水上ビル 大豊商店街B棟「みずのうえ」

何でもない場所がアートな空間に

『どこかで生まれて、どこかで暮らす。』プロジェクトを展開する木村玲奈は、全国各地に滞在して、人や土地とダンスがどう関わるのか考察・実践してきました。豊橋では豊橋市公会堂や豊橋市美術博物館といった公立文化施設から生活感漂うエリアまで取材して、ダンスの映像を撮影。それらを「街の記憶」として捉え、成果発表会へとつなげていきました。しかも見せ方はPLAT館内にこだわらず、街中から出発する移動型シアター。喫茶「水鳥」や水上ビルの大豊商店街などで踊り、最後にPLATへとたどりつきます。その行程で見学者は、日常に非日常が浸食していく様子や、見慣れた風景に異質な時間が生まれる様子など、何でもない場所がアートな空間に変貌する経過を目の当たりにしました。ダンスは街の再発見や潜在能力の発掘にも大きな力を発揮するのです。

Report

ダンス・レジデンス 2019 レポート

ダンス・レジデンスは3年目にして、ますます広がりを見せ始めました。公募枠には実績あるアーティストや新進気鋭の申し込みがあり、過去2年のレジデンスに対する好反応がうかがえます。地元の各種施設・団体との連携も進み、アートの芽は着々と育っています。

【参加アーティスト】

- 振子びじん
- 康本雅子★
- 白神ももこ
- スペースノットブランク★
- カンパニーデラシネラ★
- (計5団体)

★印のアーティストは公募参加



振子びじん 創作風景

白神ももこワークショップ「表現のはじまりを見つける」より

一緒に踊る、共に生きる

日本語で「社会包摂」と訳される「ソーシャルインクルージョン」の考え方や実践が叫ばれる現在、劇場は大きな役割を担っています。乳幼児や高齢者、障がい者や在留外国人など、多様な人間が共生できる社会、芸術や文化を等しく享受できる社会は、理想のままではいけません。今回のダンス・レジデンスでは、白神ももこが市内の老人ホームを利用する60代後半以上の男女を対象にワークショップを実施。即興的・遊戯的なコミュニケーションの中から生まれる動きや身体性を探りました。見学も可能だったこのワークショップは、様々な立場からダンスやアートを考える好機となりました。また、振子びじんは地元の視覚障がい者の方と創作を行いました。彼は2017年からダンス、視覚、音、言葉などの関係を模索中。詩人らと共に作品にフィットする音声ガイドの制作にも取り組んでいます。振子の先進的な思考は当地でも生かされました。

豊橋のエキスを存分に吸収!?

ダンサー・振付家の白神ももこは、音楽家の西井夕紀子、舞台美術家の長峰麻貴と共に豊橋を訪れ、参加アーティストの中でも特に精力的に飛び回りました。日本の民謡の起こりを参考にしたクリエイションを構想していたことから、豊橋で活動する太鼓と民謡の団体「美友会」に取材。創作のヒントを求めました。また、これまで街中をリサーチするアーティストはいましたが、白神たちは豊橋の自然にもアプローチ。表浜海岸に出掛け、波に対する身体の反応から新たな動きの創造を試みました。これらの行動は、都市でもあり自然にも恵まれている豊橋だからこそできたことです。なお、表浜海岸の様子は展開中の事業「まちと劇場の技技交換所」の動画でも紹介予定。事業の詳細はPLAT公式ホームページをご覧ください。



白神ももこ、西井夕紀子が「美友会」に取材の様子



表浜海岸で身体の動きを探る白神ももこ、西井夕紀子



カンパニーデラシネラ ワークショップ&ショーイング「甘えの構造」より

見せる場から、創る場に……

結成12年ながら、主宰・小野寺修二はキャリア25年超のベテラン。国内外での実績も十分のカンパニーデラシネラが、公募を通じてダンス・レジデンスに参加しました。PLATには過去2度の公演で登場しており、全国的にも人気の高い創作集団ですが、今回「見せる場」ではなく「創る場」にPLATを選んでくれたことは、これまでの関係性も踏まえて嬉しい展開。劇場はもちろん、街や人にも魅力を感じてもらえたのでしょうか。そんな彼らは、実に3日間かけてワークショップを開催。30分ほどの作品ができるまで作業を積み重ね、最終日に発表も行っています。創る楽しさと緊張感の両方を体験するワークショップは、舞台芸術の本質を体感する機会にもなりました。



カンパニーデラシネラ 稽古場公開の様子

新進気鋭にイチ早く大接近

公募枠では他にも、ダンスや身体表現のシーンだけでなく演劇的文脈においても評価を受けている「スペースノットブランク」が参加。東海地方初登場となる新進気鋭の感性に、いち早く触れる機会が得られました。小野彩加と中澤陽によるこのコレクティブは現在、マークや記号、それにもならないものを含めた「かたち」からダンスを生み出していく創作を継続中。ワークショップもその流れで行われました。作品試演会(成果発表会)の様子をインターネットを通じて中継するアイデアが出るあたりも、次世代の担い手として頼もしい存在。ちなみに、稽古場公開の見学者が翌日の試演会には友だちを連れて再び来場してくれるという出来事もあり、感度の高い市民の心をグッとつかんだようです。



スペースノットブランク ワークショップ「記号と動きを往復して自己と他者のダンスを知る」より



スペースノットブランク作品試演会(成果発表会)の様子



ダンスに 決まりなんてない

康本雅子はコンテンポラリーダンサーとしての活躍はもちろん、演劇や広告業界、ミュージックシーンでも振付してきた豊富なキャリアを持ちますが、公募によってダンス・レジデンスに参加。新作公演創作のためのキックオフを行いました。滞在制作の最後には作品試演会(成果発表会)を開きましたが、その光景はかなり強烈なインパクトを……!! ダンサーたちは肌にマジックで何かを描いたりしたかと思えば、食べ物を手でつかみ食いたり、生々しい欲求を全身で表現。時にグロテスクにもエロティックにも映る作品に見学者は驚きつつも、身体の可能性を突き詰めていくというダンスの根本を思い知らされます。身体を真剣に考える上でやっていけないことなどない——康本たちはダンスの自由さと凄みを示しました。



康本雅子 作品試演会
(成果発表会)の様子

少年頃の ダンス開眼



過去最長の滞在日数となったカンパニーデラシネラは期間中、豊橋市立青陵中学校を訪問。ワークショップを行いました。2年生の全5クラスを対象としたので、ワークショップは2日間に分けて実施。13歳、14歳という多感な時期の中学生たちも、主宰の小野寺修二をはじめとしたメンバーの気さくな人柄に触れ、マイムをベースとした、他者との身体コミュニケーションから生まれる動きや表現を楽しみながら体感し、心を開いていきました。日常生活ではテレビなどでヒップホップカルチャーをベースにしたダンスを見かけることが多く、学校教育の現場でも作品の多様性を知る機会、ましてやそれらの専門家と触れ合う機会はなかなか設けられません。ダンス・レジデンスではアーティストの理解を得ながら、できる限りアウトリーチ事業も展開。小学校や中学校の子もたちに、多彩なダンスがあることを紹介し、体験してもらっています。



カンパニーデラシネラが豊橋市立青陵中学校で行ったワークショップ

Artist Profile 2019 ★印のアーティストは公募参加



振子びじん

Pijin Neji

2004年まで大略駝艦に所属し、磨赤児に師事する。舞踏で培われた身体を元に、自身の体に微視的なアプローチをしたソロダンスや、ダンサーの体を物質的に扱った振付作品を発表する。2011年、横浜ダンスコレクションEX審査員賞、フェスティバル/トーキョー公募プログラムF/Tアワード受賞。京都在住。生活にダンスの杭を打ち込むべく「ダンサーズ」を主宰し、定期稽古を行う。2020年、カンパニーneji&co.を設立し、京都を拠点に活動を開始する。

滞在期間：2019年6月18日～30日

滞在メンバー：振子びじん、田中みゆき、大崎清夏

活動内容：「音で観るダンスのワークインプログレス」創作活動のため
(2019年8月31日、KAAT神奈川芸術劇場にて上演)

ワークショップ：「からだうごく／からだをうごく／からだがうごく」
(2019年6月22日・23日開催／12名参加)



白神ももこ

Momoko Shiraga

東京都出身。自ら作・演出する「モモンガ・コンプレックス」では、ダンス・パフォーマンス的グループと名づけ、ダンス的な要素を用いながら世界の端っこに焦点をあてる。モモンガ・コンプレックス以外では、F/T14「春の祭典」(美術：毛利悠子、音楽：宮内康乃)、木ノ下歌舞伎「隅田川」(共同演出：木ノ下裕一、杉原邦生)など。長峰麻貴(舞台美術)、西井夕紀子(音楽)とのユニット「かんきつトリオ」を組み、場所を問わず相互作用で作り出されるパフォーマンスを目指している。2019年4月より富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督。2017年～2018年セゾン文化財団ジュニアフェロー。

滞在期間：2019年7月8日～15日

滞在メンバー：白神ももこ、西井夕紀子、長峰麻貴

活動内容：「地面のうた」の創作活動として
(2020年2月16日、横浜赤レンガ倉庫1号館ホールにて上演)

ワークショップ：「表現のはじまりを見つめる」
(2019年7月13日開催／10名参加)



カンパニーデラシネラ ★

Company Derashinera

2008年設立。マイムをベースに台詞を取り入れた独自の演出で、世代を越えて注目を集めている。国内での活動のほか、海外公演など多数。また古典名作シリーズ(第1弾『ロミオとジュリエット』、第2弾『ドン・キホーテ』)では、身体性に富んだ演劇作品で小中学校巡回公演を行い、次世代へのアプローチにも積極的に取り組んでいる。その他、野外や美術館、アートフェスティバルなど、劇場内にとどまらない場所でのパフォーマンスも多い。

滞在期間：2020年1月14日～2月2日

滞在メンバー：小野寺修二、藤田桃子、大庭裕介、崎山莉奈

活動内容：カンパニーデラシネラ新作公演「どこまでも世界」の創作活動として
(2020年2月27日～3月1日、KAAT神奈川芸術劇場にて上演)

ワークショップ：「甘えの構造」
(2020年1月17日～19日開催／9名参加)

3日間で、これだけの事が出来るのがスゴイ。集中力／添いつつずらす。目で会話。言葉がない分、想像力が増す。
(カンパニーデラシネラ ワークショップ&ショーイング 参加者・男性・50代)

ワークショップ、一緒に出来て楽しかったです。初めてとても緊張しましたが、少しずつ和らいできて、楽しくできました。作品試演会は私が今まで見に行かない世界で、まず見かたがわからずとまどいましたが、話しを聞いて意味などをもっていると知り、次見る時は見かたが変わるだろうなと思いました。
(白神ももこ ワークショップ参加者・女性)

3日間で作った作品とは思えませんでした。集中して動いているところ、動く、止まるがカッコ良かったです。フレームのワークは、本当にかっこ良かったです。不思議な世界に引き込まれていきました。台詞が無いのに、伝わってくるものがあって面白!! 皆さん、ありがとうございます。お疲れ様でしたあ。
(カンパニーデラシネラ ワークショップ&ショーイング 見学者・女性・30代)

稽古場公開の時から初演の演出も合わさって、更に面白くなっていました。美術が全て紙なのも興味深かったです。
(白神ももこ 作品試演会見学者・女性・20代)

記号ナビゲーションするダンス。しりとりのようにイメージを膨らませる。ダンス創作のおもしろさを感じる。
(スペースノットブランク ワークショップ参加者・男性・60代)



康本雅子 ★

Masako Yasumoto

1974年、東京生まれ。自身のダンス作品を国内外で発表するほか、演劇や広告、MVの振付など多岐に渡る活動をしている。また教育機関でのワークショップも多数行っており、近年では小学生や高校生との作品制作も行う。2012年からは福岡へ、15年からは京都へ移住。17年には母と子をテーマにした作品「子ら子ら」を国内3都市にて公演。20年には「全自動煩惱ずいずい図」をロームシアター京都にて公演。

滞在期間：2019年7月1日～8日

滞在メンバー：康本雅子、小倉笑、鈴木春香、菊沢将寛、泊舞々、合田有紀
活動内容：康本雅子ダンス公演「全自動煩惱ずいずい図」の創作活動として
(2020年2月21日～23日、ロームシアター京都にて上演)

ワークショップ：「あーたの知らない私の知らないあーた」
(2019年7月7日開催／12名参加)



スペースノットブランク ★

Spacenotblank

小野彩加と中澤陽が舞台芸術を制作するコレクティブとして2012年に設立。舞台芸術の既存概念に捉われず新しい表現思考や制作手法を開発しながら舞台芸術の在り方と価値を探究している。環境や人との関わり合いと自然な

コミュニケーションを基に作品は形成され、作品ごとに異なるアーティストとのコラボレーションを積極的に行っている。

滞在期間：2019年11月25日～12月6日

滞在メンバー：小野彩加、中澤陽
共同制作メンバー：花井瑠奈、山口静
活動内容：スペースノットブランクが2019年1月より継続して上演している「フィジカル・カタルシス」に関する持続可能性のためのリサーチと創作活動として
(2020年8月、2020年度THEATRE E9 KYOTOラインナップ、2020年度こまばアゴラ劇場ラインナップとして上演予定)

ワークショップ：「記号と動きを往復して自己と他者のダンスを知る」
(2019年11月30日開催／7名参加)

ダンスの経験はあったが、ジャンルが全く違う世界で幅が広がった。
(振子びじん ワークショップ参加者・男性・20代)

とても興味深く拝見しました。「見る」ということとは何か、作品を見る時に自分が何を(どこを)見ているのか、普段無意識だった部分に気づかされました。
(振子びじん 作品試演会見学者・女性・40代)

性がモチーフとのことですが、生殖＝親子関係のイメージも喚起されました。身体に書き込むシーンは耳なし芳一を連想して、「親が子を文字でプロテクトする」という表現なのかな?と思いました。とても興奮しました!
(康本雅子 作品試演会見学者・女性・40代)

こういうダンスは初めてだったのでびっくりした!!
(康本雅子 作品試演会見学者・女性・9歳)

なにを見ても、「これは～である」と意味を求めたり、○か×か、AかBかのどちらであるかと判断してしまうことばかりあふれていますが、作品を見せて頂き、いろいろなことが溶けていると感じたし、頭の中がヴァアと広がる感じがしました。すごく揺さぶられました。ピアノのシーンは泣けてきました。
(康本雅子 作品試演会見学者・男性・40代)

観に来て良かったです。何かとつながりが見つかるかと思いましたが、良い機会になりました。
(スペースノットブランク 作品試演会見学者・男性・36歳)

ダンス・レジデンス 2019 市民の声

※アンケートより一部抜粋



もっとアートのある明日へ——



◀QRコードを読み込むだけで
コンセプトムービーと本誌
データダウンロードサイトへ!



豊橋アーティスト・イン・レジデンス 2019
〈ダンス・レジデンス〉事業報告書
2020年3月発行

発行：豊橋市／公益財団法人豊橋文化振興財団

